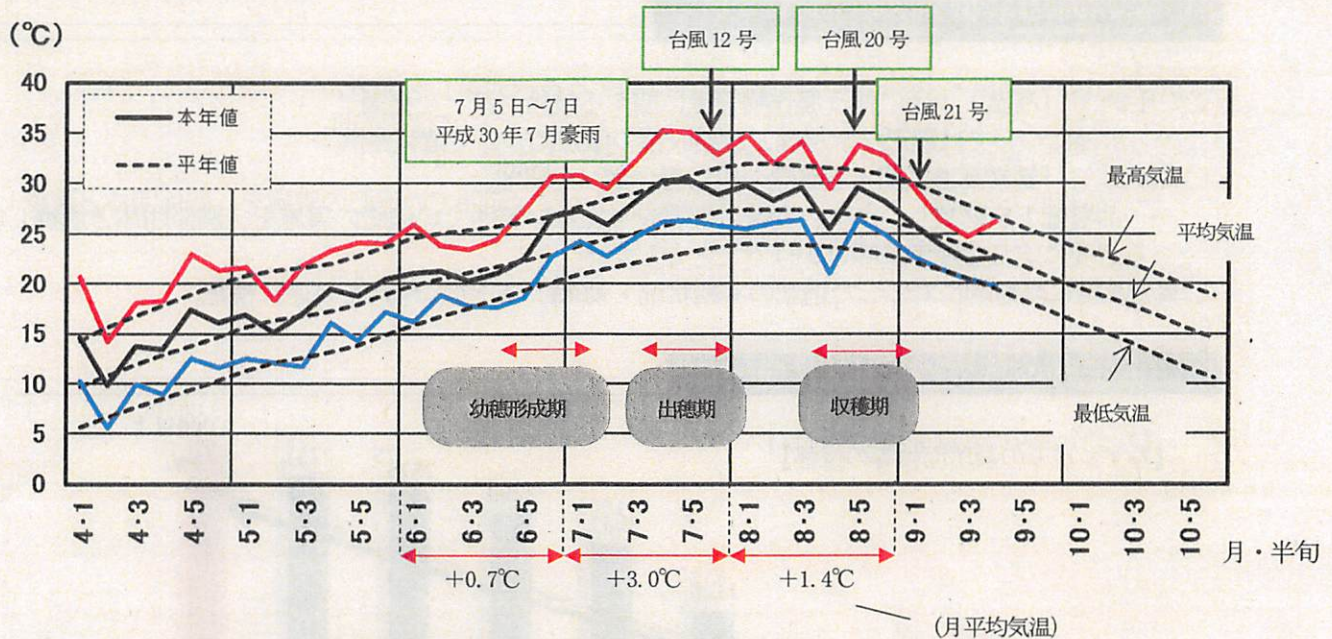


平成30年産水稻の作柄概況について —「みずかがみ」等早生品種を中心として—

1. 稲作期間中の気象について



稲穂の元(幼穂)ができる6月下旬から早生品種の収穫期の9月初めにかけて、気温は高く推移した。特に、7月は、上旬の大雨以降、晴天が続く、月平均気温が平年を3.0℃上回る高温となった。このため、「みずかがみ」、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」など早生品種の品質への影響が懸念された。

2. 平成30年産水稻の作況および1等米比率

①水稻の作況 (9月15日現在)

	収量 (kg/10a)	作況指数 (前年同期)
滋賀	512	99(100)
全国	533	100(100)
近畿	504	99(100)

*農林水産省公表値。

②1等米比率の状況 (8月31日現在)

	滋賀県 全品種平均	品種別		
		みずかがみ	コシヒカリ	キヌヒカリ
本年産	83.6	90.2	66.1	53.2
前年同期	83.0	90.2	53.2	43.6
前年産(3/末)	67.6	89.2	60.7	57.5

*農林水産省農産物検査速報値。前年産(3/末)は公表値。

3. 品種別の状況

【みずかがみ】

- 本年のような「酷暑」といわれる暑さにも耐え、外観品質は良好。
- 農産物検査の速報値では、1等米比率は90%近くと高く、県内で栽培されている早生品種の「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」と比較して、暑さに対する強さが明確となった。
- 台風21号が接近する前に、ほとんどの「みずかがみ」の収穫が行われ、台風による被害も免れた。
- 収量は、平年並からやや少ない状況。

【コシヒカリ・キヌヒカリ】

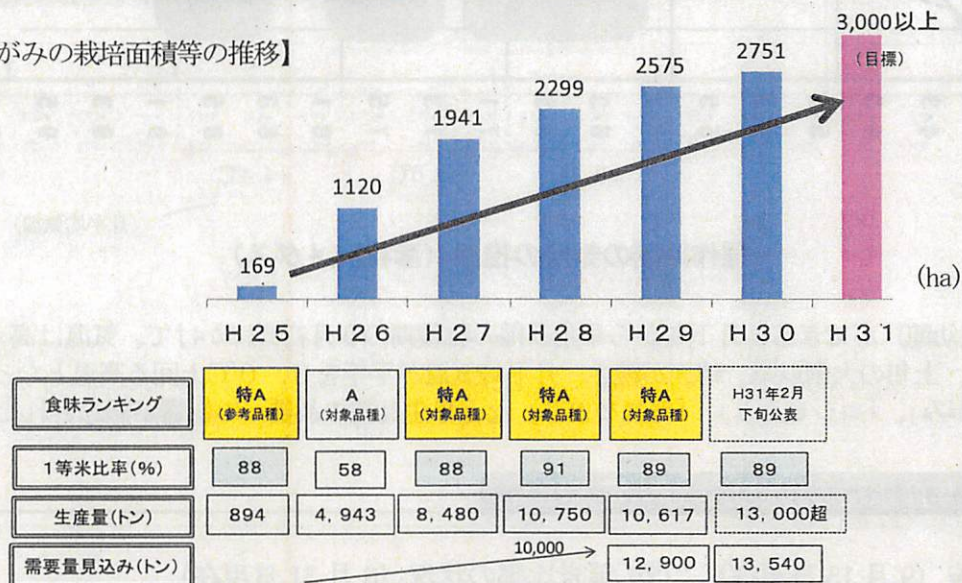
- 高温の影響で、玄米の全体、または、一部が白く濁る未熟粒が発生している。
- 収穫前の台風20号、台風21号やその後の降雨による倒伏や刈り遅れによる穂発芽もみられる。
- 「キヌヒカリ」でこれらの影響が強く出ている。
- 収量は、平年並からやや少ない状況。

4. 異常高温に対する緊急対応について

- 7月20日「高温・少雨に伴う農作物管理に関する技術対策」を発表。
 - 水稻については適正な水管理と適期収穫の徹底について情報提供。
- 7月25日「異常高温に関する緊急の担当者会議」を開催。
 - 品質低下を軽減し、かつ、食味に影響を与えない範囲での追肥の実施を、関係団体と連携しながら必要に応じ生産者に呼びかけることとした。
- 異常高温に緊急的に対応した追肥の実践状況・効果について、年内を目途に検証。

5. 「みずかがみ」の作付拡大に向けて

【みずかがみの栽培面積等の推移】



※1等米比率は農林水産省公表値。H29年産は3月31日現在、H30年産は8月31日現在速報値。
 ※生産量(トン)は農林水産省公表の農産物検査数量、H29年産は3月31日現在。
 ※需要見込みは卸売業者等から全農しがへの要望量。

- 3年連続の特A評価獲得により、需要は伸びているものの、生産が追い付いていない状況。
 - 近江米生産流通ビジョンに基づき、「家庭用」として生産拡大を図る。
 - 食味ランキングにおける「特A」評価の連続獲得、プレミアム「みずかがみ」の生産など、一層の品質・食味向上を推進。
 - 平成31年産では3,000ha以上の作付けを目指し、以下の対策を進める。
 - ・需要拡大に関する情報の確実な伝達（JAによる米卸への視察研修会、消費者交流会）
 - ・初期生育の確保など収量の安定化に向けた技術改善
 - ・作付の動機づけとなる生産者メリットの提示
- } わかりやすい技術パンフレットの作成・配布

6. その他（中生品種の作柄等について）

- 「日本晴」、「秋の詩」では、台風21号の通過と、その後降雨が続いたことにより、収穫期に入る前から倒伏したほ場が認められた。このため、穂発芽をはじめとした品質低下等が懸念される。